



金子耳鼻咽喉科 Ear&NoseClinic  
[所在地] 大阪市阿倍野区阪南町2-1-18  
[TEL] 06-4399-4133  
[HP] https://kaneko33.com/  
[診療科] 耳鼻咽喉科



金子敏彦院長  
「耳鼻咽喉科は手術で治る病気も多いので、「治してナンボ」の精神で診療します」



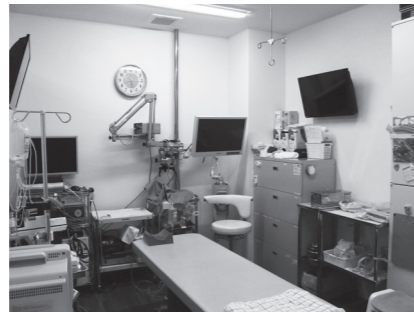
写真左側が聴覚検査室。右側に測定器を配置



CTスキャン室。被ばく量の少ない先端機器を導入している



待合室には、スタッフの提案で荷物用に透明の大型バッグを常備。コートや乳幼児のかさばる荷物もまとめられる



診察室の隣に手術室があるため、一般外来でも高度な機器を用いた複雑な処置がすぐ行える



診察室では、患者の左右にあるモニターで鼓膜所見や電子スコープの映像を映しながら診療

大阪市阿倍野区  
＜地域データ＞  
人口：10万8900人  
世帯数：5万1384人  
65歳以上人口：2万7574人  
75歳以上人口：1万3954人  
要支援／要介護認定者数：6874人  
在宅療養支援診療所：27カ所



POINT!

- 1 度で治す日帰り手術を行う  
左右の副鼻腔手術や鼻中隔弯曲症などの鼻腔形態の手術や別症状の手術を分けず、複数の手術を組み合わせることで1度の手術で終わらせるようにしている。
- 2 診断をつけるための検査に注力  
見えない場所にある疾患を多角的に診断するため、電子スコープやCTスキャンなど最新機器を駆使して検査。診断をつけることで治療精度を高めている。
- 3 検査や治療の成果はすべて患者と共有  
術前・術後の検査結果は、すべて患者に見せながら丁寧に説明。見えない耳鼻咽喉内部を「見える化」することで納得度の高い診療を実践する。

## 大阪市阿倍野区 金子耳鼻咽喉科 Ear&NoseClinic

### 最新鋭機器による検査と日帰り手術で “二度と通院しなくてもよい” 治療を目指す

#### 開院前からホームページ開設 診療所の売りをPR

大阪市南側の主要地区である阿倍野区。便利な立地ながら治安のよい住宅街として知られる、地下鉄御堂筋線・昭和町駅から徒歩1分の立地に、金子耳鼻咽喉科は2014年9月に開院した。

開院にあたって金子敏彦院長は、同院を周知するため、開院前からホームページを開設。自身の経歴や手術実績、そして特徴である日帰り手術や局所麻酔について詳しく発信した。その効果もあり、開院当初から「他の病院に何年かかってようやくならなかった」という患者も遠方から訪れている。昨年度の手術数は延べ752件、鼻・副鼻腔の手術が約8割を占める。

手術には午前と午後の診療の間の約2時間半を充てており、原則として、1日1人の手術スケジュールを組んでいる。診療所によつては、左右の副鼻腔手術などを別日に分けて実施するケースもあるが、金子院長の信条は、「1度の手術で治し切る」こと。鼻中隔弯曲症の鼻中隔矯正術、慢性副鼻腔炎の内視鏡下副鼻腔手術、アレルギー性鼻

炎の後鼻神経切断術——など、複数の手術を組み合わせ、できるだけ1回の手術で必要な処置が完結するように取り組んでいる。

また、鼻の手術後は出血トラブルが起こることがあるため、術後は患者に金子院長の携帯電話番号を渡し、緊急時のケアにも対応。アフターフォローも欠かさない。

#### 最新鋭機器への投資で 検査や治療の精度を担保

こうした手術を行ううえで重要なのが、綿密な検査だ。原因や手術が可能かなどを見極めるため、同院では多くの検査を行っている。

金子院長は、「私が目指すのは、二度と通院しなくてもよい治療です。検査が増えると診療費もかかりますが、原因が判明すれば必要な治療ができるので、結果的に通院回数は減ります。費用が高くなりそうなきは、長期的な視点で診療費を見てほしいと説明しています」と話す。

そのため、電子スコープやCTスキャン、シエバーシステムなど検査や手術機器は最先端の機器を導入。確実な診療のための設備投資は惜しまない。検査画像はすべて

て患者に見せながら説明し、普段は見えない鼻腔内や耳の中を「見える化」。治療への納得度を高める。

一方、患者の増加で診察時間が長くなり、肝心の手術に支障が出るようになってきたため、17年8月に完全予約制に切り替えた。現在、1日の患者数は約60人。急性の感染症などの突発的な受診は減り、専門性の高い治療を望む患者が増えた。

「一定の時間をかけて検査や治療の成果を説明することは、患者満足度を高めるだけではなく、スタッフ教育にもなると考えています。こうした説明からも症例への理解を深め、専門性を磨いてほしい。知識が、外来や手術時の看護ケアにも活かれますから」（金子院長）

予約制により外来や手術を余裕をもってこなすことができるようになった。以前は21〜22時までかかっていた診療も定時には終わらせるようになり、スタッフの就業環境改善にもつながっている。

#### スタッフ一丸で よりよい医療・院内環境へ

現在、常勤・非常勤合わせて看

護師5人、助手1人、事務4人が在籍。手探りで運営してきたが、開業3年目のとき、初めて外部講師を迎えて接遇研修を行った。その影響を金子院長はこう語る。

「接遇力の向上には、患者さんへの対応以前に私を含めたすべてのスタッフ同士のコミュニケーションが重要だと学びました。それ以来、スタッフが自主的に会議をしたりコミュニケーションを図る姿が見られるようになりました」

こうした自発的な取り組みから出てきた院内環境やサービスの改善は積極的に採用するなど、後押ししている。

「診療所経営の根幹は医療ですから、私自身も医療知識・技術を研鑽するため、学会参加・発表はもちろん、同業界の仲間と定期的に勉強会を行っています。専門性の高い医療を求めて来院する患者さんは、常に最新知識を備えていますから」（金子院長）

今後の展望について金子院長は、「今は鼻の手術が多いですが、技術を高めて、今後は中耳の手術を増やすなど、手術の幅を広げていきたいと思っています」と、さらなるビジョンを描いている。